様式第5-1号(第7条関係)

論 文 内 容 の 要 旨

氏　名	寺﨑　智志

Outcomes of catecholamine and/or mechanical support in Takotsubo syndrome

（ 和 訳 ）

たこつぼ症候群におけるカテコラミンと機械的サポートの効果

論文内容の要旨

目的 本研究は，カテコラミンサポート(CS)または機械的サポート(MS)を必要とした重症のたこつぼ症候群(TTS)患者の臨床的特徴を明らかにし，重症度と院内死亡率に関連する因子を特定することを目的とした。

方法 本研究は，JROAD-DPC 登録のレセプト請求データを用いた、2012 年 4 月から 2016 年 3 月までの全国規模の後ろ向き研究である。TTS 患者を重症 TTS 群と軽症 TTS 群に分けた。重症群は、CS および/または MS を必要とした患者と定義した。

結果 6,169 名の TTS 患者のうち、1,148 名(18.6%)が重症 TTS であった。両群間で年齢に有意な差は見られなかったが、重症群は軽症群に比べて女性が有意に少なかった。MS を受けた 130 例のうち、MS のみを必要とした患者は 22 例、MS と CS の両方を必要とした患者は 108 例であった。30 日死亡率は、重症群が軽症群よりも有意に高く(11.4%対 2.6%、P<0.01)、年齢とともに上昇した。重症 TTS 患者の死亡者のうち 65.6%が 7 日以内に死亡した。多変量解析では、男性(オッズ比[OR]: 1.22、P＝0.03)、Charlson スコアの高さ(OR:1.11、P＜0.01)、肺炎の併発(OR:1.68、P＜0.01)、敗血症の併発(OR:6.02、P＜0.01)、救急車の利用(OR:2.01、P＜0.01)が重症 TTS と関連していた。続いて CS を使用せず MS のみで治療した患者の特徴と転帰を明らかにするため、患者を CS と MS の使用状況に応じて 4 群に分けて比較検討した。全 TTS 患者のうち、5,021 人(81.4%)が CS(-)MS(-)群、1,018 人(16.5%)が CS(＋)MS(-)群、22 人(0.4%)が CS(-)MS(＋)群、108 人(1.8%)が CS(＋)MS(＋)群であった。CS(＋)MS(＋)群は、他の群に比べて有意に若年であった。CS(-)MS(＋)群は、CS(＋)MS(＋)群に比べて、30 日間の院内死亡率が低かった。

議論 TTS は通常、可逆的な病態であるため、重症 TTS の管理には、急性期の CS や MS が有効であると考えられる。本研究では、CS が 1,126 例、MS が 130 例含まれており、連続したレトロスペクティブ研究としては最大級のものである。しかし、CS の使用は、カテコールアミンの過剰刺激が TTS の原因である可能性があるため、推奨されない場合がある。本研究では、CS を使用せずに MS を受けた患者が存在し、そのグループの 30 日院内死亡率は 13.6%であった。この死亡率は、CS(＋)MS(-)を受けた患者よりも高かったが、CS(＋)MS(＋)を受けた患者よりも良好であった。TTS の発症には、交感刺激系の過剰な活性化が関与していると考えられることから、今回の解析では、CS と MS の臨床的有用性は結論づけられない。重度の TTS におけるカテコラミンの使用と機械的サポートの効果を評価するために、さらなる研究が必要である。

結論 日本の全国データベースに登録された 6,169 名の患者のうち、重症 TTS の発生率は 18.6%であり、重症 TTS 患者の 30 日死亡率は軽度の TTS 患者よりも高かった(11.4% vs. 2.6%)。